

<p>月報</p>	<p>日本キリスト改革派 横浜中央教会</p>	<p>2016年8月14日 8月号</p>
-----------	-----------------------------	---------------------------

「 たい そうでなくても 」

C. K

「このお定めにつきまして、お答えする必要はございません。わたしたちのお仕えする神は、その燃え盛る炉や王様の手からわたしたちを救うことができますし、必ず救ってくださいます。

（たい）そうでなくとも、御承知ください。わたしたちは王様の神々に仕えることも、お建てになった金の像を拜むことも、決していたしません。」 旧約ダニエル書 3:16～18 1384 頁

改革派教会創立宣言に次のような一節があります。

今次の大戦に当たりては、宗教の自由は甚(い)だしく圧迫せられ、我等の教会も歪められ真理は大胆に主張せられざりき。我等はこれを神の前に恥じ、国の為に憂ひたり。

三十周年宣言 三、国家にたいする教会の関係 (三) (専制への反対)

の項に次のように記されています。

神のみが、からだと良心との主であられる。神は、いかなる国家的権威であれ宗教的権威、彼らが絶対的権能とりわけ良心と思想をほしいままに統制する権能を主張する場合は何時でも、われわれがその権威者に逆らってご自身に服従することを要求される。

したがって、政治・経済・宗教などのあらゆる形の専制たいし、とくにそれが全体主義的になる時、それに公に抗議することは、教会の義務である。

ナチスが共産主義者をつかまえた時 Martin Niemoller 作

ナチスが最初共産主義者をつかまえた時、私は声をあげなかった。

私は共産主義者ではなかったから

社会主義者が牢獄に入れられた時、私は声をあげなかった。

私は社会主義者でなかったから

彼等が労働組合員たちをつかまえた時、私は声をあげなかった。

私は労働組合員ではなかったから

そして、彼等が私を捕まえた時

私のために抗議する者は、誰一人残っていなかった。

2600年前の個人に人権のなかった時代のダニエルらと第二次大戦のドイツと日本の状況を観る時、国家の魔性にどのような姿勢を取るべきか。今から整理し確立させ、常に点検をしていく必要がありますね。

暑い夏になりました。今は草木も夏枯れで、うなだれていますが、春の庭はアゲハ蝶が舞い、蜜蜂が忙しげに飛び交い、ふかふかの土の中から丸々とした、みみずが顔をのぞかせる生態系の維持された自然環境に、ほんの一瞬神の庭を見る時があります。

きっと何かを求めて探していたのかもしれませんが。幼い時から年代を経て習い事や趣味は数々変遷してきました。ただ、教えられたわけではないのに喜んで続けてきたことが園芸でした。赤いシャベルで穴を掘り、種を蒔き、道端の美しい雑草を抜いて、小さな花壇にせっせと植えていた小学生の頃からずっと生活の一部でした。

庭に居ると次々に作業が繋がり、時が過ぎるのも忘れ、重い鉢を動かしたり、高い所に登る闊達な自分を見出します。

生きる意味が分からなかった思春期や、イエス様に出会ってからも、神様は何のために私を捉えてくださったのだろうと疑問を持ち続けていますが、人生の秋を迎えた今、神様を賛美し、礼拝することはもとより、植物を育み庭づくりをすることが私の表せる神様の御栄光なのでは・・・と感じ始めています。一生懸命探していたものが目の前にあったような感覚です。

時折、礼拝の中で語られる次の言葉に、ぬるい信仰の者は身が引き締まります。『キリスト教界では努力とか、頑張りという言葉は嫌われ、すべては恵み、ありのままのあなたで良いと言われるが、聖書は努力しない人には決して読めません。決心しない人は決して実を結べません』と。

太陽と恵みの雨で植物を育ててくださる神様は、秋の間に球根を植えよう、ここに種を蒔こうという意志を持っておられ、雑草を抜き、水をやり続ける日々の努力の結果、陽光に煌めく息を飲むほどの鮮やかな花々を見せてくださるのを、信仰の道に重ね実践で教えていただいているように思います。

神様の創造された小さな世界を喜び、道行く人への季節の花伝道を、シャベルの持てる限り続けていきたいです。

草は枯れ 花はしぼむ しかし神の言葉は永遠に立つ

一年が経ちました

T. K

去年の今頃、私は原宿のリハビリ病院にいました。あれからもう一年。みなさまのお祈りを心から感謝いたします。夏服を引っ張り出すのも2年ぶり、もう一度手を通す喜びを感じています。今もリハビリは継続中で、近くの小規模地域密着型介護予防通所デイサービスに週二回通っていましたが、7月の介護保険認定調査の結果、8月から週一回の通いとなってしまいました。とても楽しい施設なので通う回数が減ったのはちょっと残念なのです！？

その施設には理学療法士はいないのですが、運動・体力の向上を図るため、ジムにあるような機械を使います。利用者は90代から、50代ぐらいまでの方々で、1コース定員13名です。症状は、認知症、脳疾患後遺症、大病をなさった方々などです。デイケアに通われる方々よりは、私は若干症状が軽いのかもしれません。

そこの責任者を初めスタッフ全員がサービス精神に徹しておられ、利用者が楽しく体力の向上、予防ができるようにいろいろ工夫しています。例えば、利用者が到着すると、スタッフ全員が一人ひとりに必ず挨拶をし、笑顔で迎えます。当たり前のようなようですが、そうではない施設もあるのです。

利用者の多くは高齢者ですから水分補給は重要です。そこで、紙コップ式の自動販売機があり、無料で好きな飲み物が飲めます。何を飲みたいか考え、決め、操作して、飲むというのが、脳トレには大切なのだそうです。休憩時間にテレビを見せる施設もありますが、この施設では利用者同士の楽しいおしゃべりタイムです。おしゃべりの花が咲いて次のプログラムになかなか進めない時もあります。また、自費負担で観光旅行をしたり、食事をする機会も提供しています。一人ひとりに注意を払ってくださいますから、外出困難な方でも安心して出かけられます。

この施設はいつも明るくて、活気と笑顔があります。「教会もこうでなくっちゃ！」と、改めて反省させられました。同様のことを袴田先生が今年の全国青年リトリートの講演でおっしゃっています。「…末信者の私がなぜ教会につながるようになったか。その理由は教会の人たちに魅力を感じたからでした。他にはない、喜びと明るさがそこにはありました。笑顔がありました。…イエス・キリストを信じて生きている人たちに魅力を感じたのです。こういう明るさや笑顔を生み出している信仰とは何なのだろう。それを知りたいと思うようになりました。…」(エクレシヤ第130号より、掲示板に掲示中)

私たちの教会もこの秋からまた新しい一歩を踏み出します。イエス様に贖い出された者として、喜びと感謝に満ち溢れ、生き生きとした教会形成に励みたいです。「歌いつつ歩まん この世の旅路を」(聖歌498)と讃美しながら。